

都市部におけるストック効果を高める基盤整備による持続可能なまちづくりの推進

課題と成果

整備の事例

群馬県の現状

群馬県では、幹線道路網の未整備や交通の集中により、慢性的な渋滞が発生しており、鉄道駅やインターチェンジへのアクセスが十分に確保されていない。

また、市役所、公園、教育機関等の都市機能が集積する都市部においても、歩行者通行空間の連続性や安全性が不足しているため、徒歩による移動や市街地内の回遊性が低い状況にある。

課題

- 慢性的な渋滞が発生している幹線道路未整備箇所について、交通の円滑化を図る必要がある。
- 道路整備に合わせて、歩行空間の整備を行い、歩行空間の連続性や安全性を確保し、市街地の回遊性を向上させる必要がある。

目的

都市部において、交通拠点である鉄道駅やインターチェンジへのアクセスを強化し、市役所、公園、教育機関等の都市機能を担う施設周辺の歩道を整備する。

都市部におけるストック効果を高める道路整備を進めることで、持続可能なまちづくりの推進に寄与する。

整備効果の検証

A01-007 （都）北部環状線

国道254号から高崎に至る藤岡市の外周を東西に結ぶ都市計画道路であり、本事業箇所は(主)前橋長瀬線と(主)藤岡本庄線を結ぶ、延長約0.5kmの区間である。

本事業の整備に伴い、都市部からインターチェンジへのアクセス性が向上し、移動時間短縮などの効果が現れるとともに、周辺地域の利便性の向上が期待される。

事業の指標と成果報告

指標：道路整備により、アクセス機能が向上したインターチェンジ、鉄道駅等への所要時間の短縮

$$\Sigma \{ ((\text{整備前のアクセス時間} - \text{整備後アクセス時間}) / (\text{整備前のアクセス時間})) \times 100 \}$$

(単位:パーセント)

現況:0%短縮(R2) ⇒ 最終目標:5%短縮(R6)
⇒ 最終実績:4%短縮(R6)

- 道路整備(1路線完成)により、都市部からインターチェンジ等へのアクセス性が向上し、所要時間が現況と比較し、4%短縮された。
- 最終目標を達成することができなかったが、道路整備により、アクセス機能の向上に寄与することができた。

今後の方針

- 都市部からインターチェンジへのアクセス性が向上し、所要時間の短縮が図られた。また、道路整備と合わせ、歩道整備を行うことで、歩行通行空間の安全性が確保された。
- 車利用者及び歩行者双方の交通環境の改善が図られ、持続可能なまちづくりの推進に寄与できたと考える。
- 事業が遅れ、道路整備や歩道整備が未完了となっている路線については、引き続き、社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。

都市部におけるストック効果を高める基盤整備による持続可能なまちづくりの推進

課題と成果

整備の事例

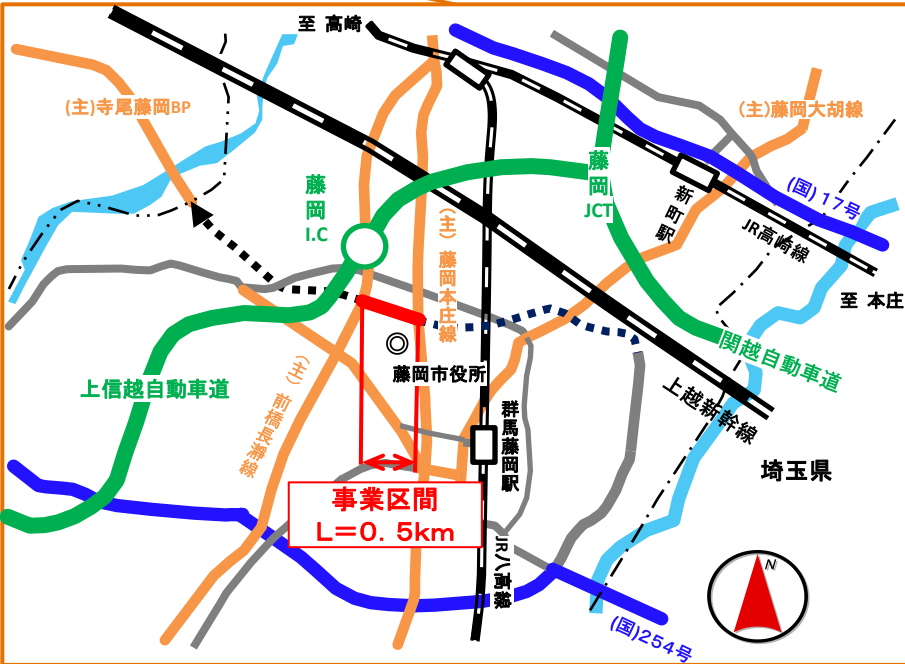
整備効果事例

(都)北部環状線 道路新設 L=0.5km

位置図



事業箇所：藤岡市中栗須・上栗須地内
事業内容：道路新設 L=0.5km



整備効果

整備後

バイパスの開通により、移動時間短縮等の効果が現れるとともに、周辺地域の利便性の向上が期待される。



整備前



整備後

